

## 医務室内看護業務チェックリストの有用性と課題の検討

社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 上北沢ホーム

寺尾 洋介、田中 美紀、落合 美夏、藤原 ふさ子

(チェックリスト 業務の標準化 看護)

### 1. 目的

日々の看護業務において、業務の標準化、効率化は一定水準のケアの保証に直結する。そのため、様々な看護現場において、プロトコルやチェックリスト等のケアの標準としてのツールが活用されている。

上北沢ホームでも業務の標準化、効率化に向けた業務課題を抱えていた。その業務課題とは、以下の2点であった。

- 1) 業務の口伝化、属人化、複雑化、無秩序化しやすい傾向があること。
- 2) 他施設からの応援看護師や派遣看護師のOJT短縮の必要性があること。

そのため、平成29年度より医務室内の16業務についてチェックリストを作成した。業務チェックリストを作成、活用し、4年が経過し、業務チェックリストの有用性と課題を検討する必要性を感じ、本研究に着手した。

本研究の目的は「医務室内看護業務チェックリストの有用性と課題を明らかにし、チェックリスト活用の今後の方向性を検討すること」である。

研究結果と合わせて、チェックリストの作成過程と現在の活用状況も報告する。

### 2. 実践内容

本研究は以下のステップで実施した。

- 1) データ収集：常勤看護師6名への半構造化面接を実施した。
- 2) データ分析：内容分析の手法を参考に質的帰納的分析を以下の通りに実施した。
  - (1) 面接の録音データからの逐語録の作成をした。
  - (2) 逐語録からコード（意味内容を端的に表す一文）の作成をした。
  - (3) コードを類似でまとめ抽象化し、サブカテゴリ、カテゴリの導出をした。
- 3) 倫理的配慮：研究対象者へ、以下の点について口頭・文書での説明を実施した。
  - (1) 匿名性を担保し、データ処理の際は、すべて記号化し個人を特定できない形とする。
  - (2) 看護業務に支障のない時間に調査を実施する。
  - (3) 対象者に対し、いつでも調査を辞退することができることを保障した。

### 3. 結果

#### 1) 対象属性

看護師・准看護師計6名であり、全員女性であった。看護師以外の保有資格として、社会福祉士、ケアマネジャーの資格を持つ対象もいた。看護師経験年数は19年～33年、当ホーム勤続年数は1年～16年であった。

